

## 恒例の小外出!! 今回も行ってきました

### 少人数外出スカイツリー

11月15日に東京スカイツリーに行きました。当日はいい天気ですからの眺めはとても良く、なんと松戸のクリンセンターの煙突が見えました。エレベータで展望台に上がる際、車椅子の人を優先的に登らせてくれました。ボランティアに藤平さんが来てくれて一緒にソラマチもまわってくれました。帰り際には北松戸駅から家まで送ってもらって玄関のカギを開けて貰いとても助かりました。本当に感謝しています。後、スタッフの太田さんが一番上の展望台に登ったら足が震えていました。とても楽しい一日でした。

見城 隆



11月15日(木)初めてスカイツリーに出掛けました。当日の朝、9時40分の電車に乗って他のメンバーと合流。北千住乗換でスカイツリーまで直行。初めて降りた駅だったのでちょっと迷いました。私はスカイツリーに上がるのにどうの手順で入場券を買うのかなあ〜と考えていましたが、整理券が配られて指定された時間に行くと優先的に購入できました。とても混雑していたので優先してもらえることにびっくり、「ちょっと悪いなあ〜」と思いつつ上りました。

この日はいくらか空にガスがかかかっていて遠くの方は見えにくかったのですが、それでも北関東方面に目を向けると筑波山がくっきりと見えました。本当にすっきりと晴れると富士山まで見えるみたいですよ。

スカイツリーが混んでいたで1人だけではしばらく行かなかただろうなあ〜と思っていたのですがこんなに早い時期に行くことができて良かったです。伊藤 聖



## 中華街で激辛麻婆豆腐を食ってきたぞ〜

11月13日にきらくの先輩含め4人で横浜中華街に行きました。びっくりしたのが平日なのに修学旅行の団体がいっぱいいてにぎわっていたことです。食べ歩きもしました。栗、ミニ肉まんを食べました。どれもおいしかったです。でも自分で思ったのは栗がたくさん店に出ているので本当にびっくりしました。お昼は中華街の中にある「景德鎮」という店に行きました。ここはどれも辛かったです。一番辛かったのは「麻婆豆腐」です。僕は口から火が出そうになりました。でもスゴくおいしかったです。今度は家族で行きたいと思います。 工藤



私、境谷も横浜の中華街で辛い麻婆豆腐を食べて山下公園まで行き、青春映画のように海に向かって『バカやろ〜』と叫びました。けして海は私に対して何にも悪いことはしていないのです。今年56歳とっくの昔に青春は終わっています。 境谷



喜楽家開所をきっかけに、当時の状況下では厳しい条件をクリアしながら「一人暮らし」を始め、現在も元気に暮らしているメンバーの一人、橋本美佐男さん(60歳)にお話をうかがいました。

質問：今までの経歴を教えてください。

柏市で生まれ、桜ヶ丘育成園で幼少から暮らし桜ヶ丘養護学校へ入学。県立松戸養護学校が開校し中学部から転入学、寄宿舎に入り登校を。当時は、高等部がなかったので、中学部卒業と同時に、大久保製塩に就職しました。会社が倒産し離職。どうしようか考えていたところ、喜楽家設立の話があり一緒に考えていきたいと参加しました。

質問：一人暮らしを決意したきっかけはどのようなのですか？

幼い頃から、親元離れての生活が長く、自立心がついたことも多々ありましたが、様々な面での制約もあり簡単に言うと「自由が欲しかった」のがきっかけです。

質問：始めるまでで苦労したことは？

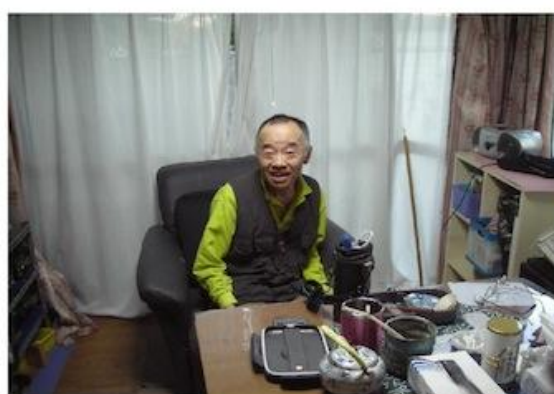
ある程度一人でもいろんなことが出来たので、苦労というのはいささか感じませんでした。アパートの契約も妹と暮らすということである程度すんなり契約することができました。

質問：一人暮らしをして、一番良かったこと、困ったことは？

困った事というより困ったと思わないことにしています。強いて言うなら、最初に松戸に住んだ頃は喜楽家もなかったし知り合いもいなかったもので、困った？と言えば、何をやるのも頼る人も相談する人もいなかったことかな？良かったことは、たくさんあります。シェパード犬を飼い訓練をして賞をいただいたり、様々な人と出会えたり、買い物したり外出したり、自分で判断し行動することで貴重な体験になり、楽しいことです。

質問：今後の考えを聞かせてください。

一人暮らしの行政、不動産や諸手当等の手続きの仕方や、悩み事の相談(身体障害者相談員)に応じていきたいです。また、彩会の理事として法人運営等にも意見を述べ頑張りたいと思います。



# 声の文法－33

## 直接法

序 前章で直接法と接続法のちがいを説明した。西洋語の文法には法(mood)があり、話し手は動詞の型を変えて、直接法、接続法、命令法を選んで表現する。直接法は事実そのものを表現する。接続法は話し手の主観的な思い、願望、意志などを、命令法は、聞き手に命令するときを使う。

### 一1 直接法について

日本語には、この三つの法の区別がない。ここで注意したいのは、日本人で西欧語を勉強した人は、日本語にも直接法と命令法はある。しかし接続法という変なものはない。と多くの人が思っているのだが、これは間違いであるということだ。

なぜこのまちがいが生まれるか、考えてみると、日本人が西欧語(英語、独語、仏語)を学ぶと、早い時期に命令法を学ぶ。英語では動詞の原形をそのまま言えば命令法となる。日本語では、未然・連用・終止・連体・仮定・命令という動詞の活用の中の一つとして、命令形があるので意味が理解できる。しかし西欧語では「法」のちがいであり、日本語は活用形のちがいであってカテゴリーが全く異なる。

次に学習が中級に進むと、突然、今まで勉強してきた分は全て直接法であって、これとは別に接続法があるのだと教えられる。そして話し手の心に浮かぶこと、現実とちがうこと(反実仮想)を表わすときに使うのだと言われるのだが、そもそも言葉で言うことは、話し手の心の中を言い表すものではないか、直接法と接続法とはどう違うのか、どうにも理解できない。そこで学習者はまだ直接法と命令法はわかるのだが、接続法はよくわからないと思ってしまうのである。

しかし三つの法は、三つそろってひとつのカテゴリーである。西欧人はこの組み合わせの中で考え、言語表現をしているのであって、そのひとつだけが日本人にわからない。日本語にはない、ということはない。直接法も実はないのである。以下それを説明する。

### 一2 直接法

繰り返すが直接法は事実、現実をそのまま言葉にして述べる時に使う「法」である。そんなことは日本語にもできるのではないかと考えるかもしれないが、以下に見るように、それができないのである。

例えば、自分が猫であると述べようとする時に英語では  
I am cat  
という。そして、重要なのは、老人であろうと子供であろうと、男でも女でも、これ以外の表現はできないという事だ。この世界のあるひとつの事態を、ひとつの言語表現で表しているのである。  
しかし日本語では、

吾輩は猫である。 私は猫です。  
あたし 猫なの。 僕はネコ。  
わしは猫じゃ。 あしは猫じゃけの。  
おいどんは猫でござす。 などなど

上記の他にも、各地域の方言や、それぞれの時代での言い方を考えれば、数限りない言い方があると言える。この数限りない言い方が指し示しているのは何であろうか。それは話し手の存在である。上記の表現を聞けば、話し手が男か、女か、老人や、子供かがわかる。のみならず、「オレ ネコだよ」「私は猫です」「わたくしは猫でございます」という表現では話し手をと聞き手の関係までもが浮かびあがってくる。もちろんその関係とはくだけた関係からよりあらたまった関係へと変わっている。

本論の題名は「声の文法」であるが、いわんとするところは、日本語は話し手が声を出す場所、社会的地位が重要であり、文の成立に影響を及ぼすということである。ここにはまさにそれが表れている。英語の「I am a cat」が話し手が猫であるという事実をたったひとつの形で表わす。これが直接法である。一方同じ事を日本語で表現しようとすると、事実以外の話し手の出身県や性別、年齢から、話し相手との関係、つまり相手が年上か年下か、親しいのか、さほどでもないのかなどを否も応もなく組み込んでしまうのである。であるから西欧語の直接法は日本語にはない。

### 一3 直接法がないもうひとつの理由

日本語の文の最小単位は詞+辞である。西欧語ではS+Pである。「I am a cat」はこれが最小単位であり、これ以上分割できない。ここには主語として名詞、述語として動詞と目的語がそろっているので、それが現実と合っているか確認できる。つまり自分は猫であると主張している人物が本当に猫であるか、とたしかめるための意味内容を文が荷なっているのである。

ところが日本語では、「私は猫である」はもっと小さく分解できる。「私？、猫だよ！」あるいは「お前はだれだ？」の答えとしての「猫だよ」という風に、そしてこれが詞+辞の型である。さてこの「猫だ」という文が一体なにを意味として荷なっているかは、文脈から切り離してはわからない。私が「猫だ」とも、私が公園で見たのは「猫だ」とも、私が飼っているのは「猫だ」ともとれる。全て「猫だ」の表現として同じである。つまり現実＝文脈の中に埋没しているのである。S+Pの形式で言語表現として文脈から切り離せる西欧語と、文脈からに依存する日本語と相違は大きく、直接法でなく、全くちがった表現方法であると結論するのが正しい。

以下 次号

西川 淳司